

# 『日本文学史を編みなおす〈古代篇〉1』

LIBRARY ICHIKO 162 SPRING 2024 4月30日 発売予定

言語は、ただ書かれるだけではない。書かれていない場所に作用しているシニフィアンがあり、書かれた言説は考えられない体系を構造化している。文学は、哲学不在の日本において、思想以上に、その言葉と物の関わりにおいて、その実際行為の可視性とそこへの理解可能様式との間における諸関係の体系を語っているとき、見えるものと見えないもの、聞こえるものと聞こえないもの、の感覚と知覚の歴史相に応じて、エモーションの分割と分配を非分離に語っている。

書く行為と語る行為との間における想像界・象徴界の穴は、それぞれの時代の現実界の不可能な対象へ向かって、意味を付け加えるのではなく、無関心の関心でもって意味を抜き去り、新たな意味の初動をもたらす、その意味の後退と出現に、ある徴候が読みとられ、異なる解釈の可能性が開かれていくとき、語の意味体制と物の可視性体制との間に、言表された文学が示す切斷的な非連続が存在作用する。行為と意味の結びつきが転じていくとき、感覚と情緒・情動の知的な編制と変容が起きていく。

今、私たちは、民主主義がそれ自体による表現体制を何ら規定的に有していない事態に直面している。民主主義は表現とその内容を関連づける画定された論理を、象徴的に断絶させてしまっている。戦争と虐殺の悲惨さを、すべての人たちが感じているのに、誰もそれを止める言葉と事物との間の関係を作れない。経済においても、語ること、行為すること、存在することの関係秩序から、文化的・文学的な思考や感情や感性が断絶されてしまっている。だが、エモーションは経済的合理性の探究以上に、商品へ情動が込められ、情動が商品化され、ワークの細分的な営みにおいて情動・情緒が感情とともに作用し、消費行為そのものはエモーションに溢れてなされている。なのに、意味されたもののみを真実ニ事実としてそこから対象を限定して問題を探る大学言説は、「意味する」シニフィアンを何ら見つけられないどころか排斥・排除までする言葉のヒエラルキーを力行使して、再現ニ表現の体制を閉じてしまっている。物事を感じるとエモーションは消費文化へ事幻化されて、文字の体制はビット文字へ吸収されて、物語は行為することと生きるだけのことの違いを無効にしてしまっている。そこから脱する生きる言葉と実際行為を取り戻す、知的資本と情緒資本の協働作用が形成されることだ。

言葉による行為、それが形作る世界、その世界に住まう諸能力ニ諸資本、この新たな関係を、文学的エクリチュールのその条件の文学性として再発見し再構成していく作業を私たちは初めた。それは意味作用/シニフィアンと感性的・情緒的なものニ emotional との、これまでとは異なる非分離な関係、つまり、感情・情動・情緒・情感・情熱・情愛・情念・感動のパブリックなパルターシユの新たな述語的非分離編制の感覚/知覚の中枢の探究である。文字の民主主義的な沈黙を超えて、事物と言葉の新しい力ニ資本シニフィアンを編み直す。

▼鈴木貞美・古橋信孝・三浦佑之・藤井貞和「日本文学史を編みなおす〈古代篇〉1」▼野口武彦「鴉外五人女」▼山本哲士「新たな資本経済/場所を開いていく言説：知的資本論の序」▼カラ―特集「古都 Cheney(メイ)の自然素材と書(上)」

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇二四年七月末発行予定



A5 変形 128頁 1650円 (本体+税10%)

【監修・アートディレクター】  
河北秀也 (かわきた ひでや)  
1947年生まれ。日本バリエールアートセンター主宰。著書に『デザイン原論』など。本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】  
山本哲士 (やまもと てつじ)  
1948年生まれ。  
政治社会学、ホスピタリティ環境学。  
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』、『フーコー国家論』ほか多数。

ご注文は「RCC」→ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局

tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

日本文学史を編みなおす〈古代篇〉1

LIBRARY ICHIKO 162 SPRING 2024 1950円 (税込)

ISBN 978-4-910131-41-2 C1010 ¥1500E

書店名

部数